

【日程】9:30 泊漁業協同組合前駐車場集合①日程説明②中山崎サイト見学 10:00 大泊海岸サイト見学：滝やタタミ岩、ぼっとあげ、白砂、泊累層、大穴洞窟 11:30 物見崎灯台サイト見学 12:00 現地解散



1 泊海岸ジオサイトについて

～六ヶ所村ジオパークを目指して～

新生代新第三紀中新世（約2,303万年前から約533万年前まで）は、日本がユーラシア大陸から分離し、日本海が形成され、これに伴う海底火山活動で日本各地にグリーンタフと呼ばれる凝灰岩層が発達した。泊海岸では、崖や海岸の岩場に、海底火山噴出物が広がっている。凝灰角礫岩や枕状溶岩・岩脈も見ることができる。（泊累層：約1,600万年前～1,500年前）

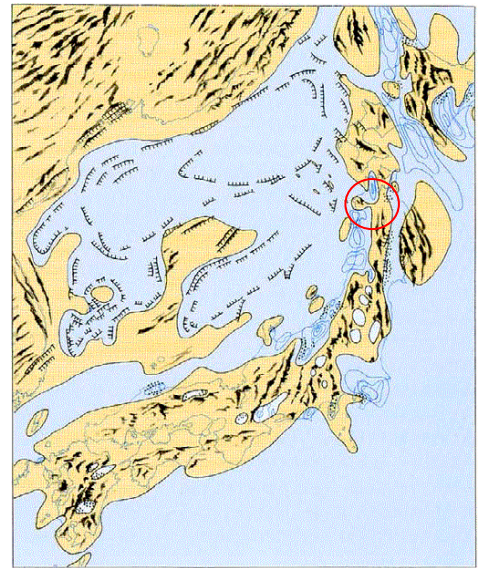


図1：新第三紀・鮮新世の古地理（600万年前～300万年前まで）
※粕野（1975）による『日本海と大和堆』から引用

2 泊海岸リアス式海岸

(1) 中山崎の海底火山岩（凝灰角礫岩）

水中でマグマが噴出して形成された火山岩や火山砕屑岩が堆積してできた。現地性と再堆積性がある。

(2) 枕状溶岩（冷却節理）・縄状溶岩

枕状溶岩は、チューブ型の玄武岩質の溶岩。

- ① チューブの中が空洞のものもある。外側が冷え固まり、中が流れ出てできる。
- ② 急に冷えてできた放射状のひび割れ・冷却節理も見られる。
- ③ チューブの先端は丸くなっている。
- ④ バラバラになって凝灰角礫岩に含まれている。
- ⑤ 溶岩が流れた様子がわかる縄状溶岩も観察できる。
- ⑥ マグマの圧力で殻が破れた跡も観察できる。



フノリ採りツアーの様子



枕状溶岩



縄状溶岩

※写真は、郷土館職員撮影